# 令和４年度　第１回　総合教育会議　議事録

| 開 催 日 | 令和５年３月 17 日（金） | 会　場 |
|---|---|---|
| 開会時刻 | 午後１時 30 分 | 中央図書館　２階　講座室 |
| 閉会時刻 | 午後３時　８分 | |

## 出　席　者

| | |
|---|---|
| 市長　渡辺　竜五 | 教育委員会　教育長　新発田　靖 |
| | 教育委員会　教育長職務代理者　仲川　正道 |
| | 教育委員会　委員　池　典比古 |
| | 教育委員会　委員　瀧川　紀子 |
| | 教育委員会　委員　岩崎　奈美 |

## 説　明　の　た　め　出　席　し　た　職　員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 総務部 | | 教育次長 | 磯部　伸浩 |
| 部長 | 中川　宏 | 教育次長補佐 | 市橋　秀紀 |
| 企画財政部 | | 学校教育課 | |
| 部長 | 猪股　雄司 | 課長 | 森　和人 |
| 総合政策課 | | 教育総務課 | |
| 課長 | 笠井　貴弘 | 課長 | 柳澤　正二 |
| 子ども若者課 | | 課長補佐 | 飯田　誠 |
| 課長 | 市橋　法子 | | |

| | |
|---|---|
| 傍聴人数 | １人 |

## 会 議 に 付 議 し た 議 題

議題（１）佐渡の子どもたちの教育について

（２）佐渡市ＳＤＧｓ未来都市計画について

報告（３）佐渡市小学校・中学校再編統合計画進捗状況について

| | |
|---|---|
| | ◎本総合教育会議は、午後１時 30 分から開催した。 |
| ・柳澤教育総務課長 | ・　定刻になりましたので、令和４年度第１回佐渡市総合教育会議をはじめさせていただきます。市長からお願いします。 |
| ・渡辺市長 | ・　大変お世話になっています。教育の本題は教育委員会と様々な形で議論して取り組んでいかなければならない問題ですが、今日はフリーな意見をいただきたいと思います。今、移住定住をやる中で、Ｉターン者は多いのですがＵターン者が少ないかと思います。しかし、正確なデータが出ている訳ではなく、本当にＵターン者が多いか少ないかは、まだつかみ切れていない部分があります。やはり、IUターンの子どもたちが佐渡に帰ってくる、そんな教育というところも、当然学校も教育をやりながら、佐渡のキャリア教育と一口で言うのでしょうが、いろいろ一緒になって取り組まなければならず、また、そこには佐渡の文化やスポーツも自然も地域も絡んでくると思っています。<br>・　私自身は、新潟は首都圏の労働力の提供基地という概念が、今のおじいちゃんから私らの親世代に、まだ根強く持っているのではないかと感じています。そうではなくて、沖縄とか南の島みたいに、この島の現状を知ってもらい、子どもたちがこの島に本当に興味を抱くような、それを地域が普通に子どもたちに面と向かってお願い出来るような、そんな仕組みが出来ないかと、移住定住の取組をしながら考えています。<br>・　教育委員会で教育という部分、学校の学びという部分はしっかりと取り組んでいただく中で、どちらかというと地域になるかも知れませんが、そういったものを一緒に考えながら、子どもたちがやはり佐渡に帰ってきたら良いところだな、佐渡に帰ってきたい、と思えるような教育というのを、人づくりというところで考えていかないと、私自身は、もう人がいない時代に突入していくと思っています。この島で、子どもたちの活躍も多いですが、みんな元気で明るく暮らしながら将来に残していけるように、是非、私自身は教育委員会では事務方ですので、そういう部分考えながら、皆さんと一緒に議論していきたいと思います。是非いろいろな見識の中で様々なご意見いただければと思っていますので宜しくお願いします。 |
| ・柳澤教育総務課長 | ・　それでは、議題の方に移りたいと思いますが、総合教育会議運営要綱第３条の規定に基づきまして会議の議長は市長が務めることとなっていますが、いろいろな意見交換ということがありますので、会議を円滑に進めるため、総務部長にお願いしたいと思います。 |
| ・柳澤教育総務課長 | ・　それでは、中川部長宜しくお願いします。 |
| ・中川総務部長 | ・　総務部長中川です。不慣れではございますが進行させていただきます。宜しくお願いします。本日の会議は午後３時を目途に終了したいと考えておりますので、ご協力をお願いします。<br>・　それでは、議題１、佐渡の子どもたちの教育についてということで、事務局からの説明をお願いします。 |

| | |
|---|---|
| ・柳澤教育総務課長 | ・　本日、追加でお配りさせていただいている資料にもありますように、まず佐渡の子どもたちの教育についての協議は、キャリア教育の部分と教育委員会事務局組織の体制の２点を主な意見交換のテーマとさせていただきたいと思います。<br>・　佐渡市教育大綱より、郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進ということで、こちらを基本目標にして、現在教育委員会では、キャリア教育を推進しているところです。右の枠に囲ってあります、佐渡の未来を担う人三つの姿という事で、佐渡で成長し活躍する人、佐渡に帰り心身ともに大きくなって活躍する人、佐渡を外から支え応援する人という、その三つの姿を目標としているところです。<br>・　子どもたちが佐渡に帰ってくる教育、というものも重要になってくるかと思いますし、また、佐渡の現状を知ってもらうことも大切と考えています。この育てる過程で、中程に書いてありますが、幼少期から高校まで特に高校のキャリア教育の充実も重要になってくるものと考えています。<br>・　資料１につきましては、20 市の教育委員会事務局組織の担当部署を取りまとめたものです。一番上が佐渡市となっています。佐渡市を除く 19 市の状況は以下のとおりですが、この表では塗り潰しの箇所につきましては、下の※印に書いてありますように、市長の権限に属する事務について、教育委員会が事務委任又は補助執行している担当部署ということでお示しをさせていただいています。<br>・　反対に、右側の部分ですが、文化及びスポーツ関係が、反対に教育委員会から市長部局の方で事務を担当している市ということでお示しをさせていただいています。<br>・　簡単ですが、資料等の説明については以上になりますので、意見交換の方宜しくお願いします。 |
| ・中川総務部長 | ・　説明は終わりました。<br>・　これから意見交換に入りたいと思います。はじめに、キャリア教育について、発言される方は挙手の上お願いします。ご意見等ありませんか。 |
| ・新発田教育長 | ・　キャリア教育については、佐渡市は一生懸命やっていきますということで進めているところではありますが、具体的には、小学校・中学校では佐渡学という形で佐渡を愛する心を育てていきます。そして、キャリアパスポートについては、小学校・中学校、中学校から高校へというところで私は出来ているのかなと思います。ただ、高等学校で具体的にどういうことが出来ているかということについては、今のところ直接的なことが教育委員会としては出来ていないという状況があります。４月の子ども条例もそうですが、18 歳までの子どもたちの成長の機会、成長を願うということを考えると、そこの連携をどういう風に今後図っていくかはとても大事なところで、教育コンソーシアムではかなり市長部局の方から力を入れていただいていて、少しずつ職場で取り組んで進んでいる様に思いますが、この辺りの勉強のあり方も、今後詰めていく必要があるかなと思います。また、皆さんから |

| | |
|---|---|
| | もご意見いただければと思います。 |
| ・瀧川委員 | ・　キャリア教育についてですが、子どもたちが佐渡に帰ってくる教育という事で、佐渡学で学んだジオパークの教育や郷土芸能、トキ保全や生態系で学んだ事などＳＤＧｓへの理解を小･中学校でやはり終わってしまっているのはもったいないと感じていました。例えば、部活動が地域移行して佐渡市に１つの強豪チームが生まれていくように、ジオパークの活動部や郷土芸能活動部、ＳＤＧｓなどを考えた生物環境部など、将来の仕事に具体的につながるようなキャリア教育部というのを、大学と連携しながら高校までやはり向けて取り組んでほしいと考えます。<br>・　2021 年から高校模擬議会というのが行われて、その内容を見ると佐渡について考えるきっかけとなり、そこから生まれてくる発想というのが面白いと思います。現在、私の息子もジオパークのことを学んで佐渡のことを考え、また戻ってきたいと思っている大学生が１人いるのと、生態系を学んで佐渡の環境を維持していきたいと思っている高校生の息子がおります。では、高校で具体的にどんな活動をしているかを見たときに、やはり部活動を各学校の生徒主体で取り組んでいる場合が多いですが、佐渡に関する学びを持続したい学生の一部は、市民講座や佐渡で行われている各種講座に参加しているというのが今の状態です。フリートークということなので、学校がこれから統廃合すると、使われなくなる廃校が出てくると思うのですが、佐渡独自のキャリア教育施設ということで、運動部が体育館施設に通うように、こういった芸能関係だったり文化部だったりジオパーク部だったりサイエンス部みたいなものが将来できて、小・中・高と１つの建物に継続して学び続けることができることができたら、将来の佐渡のことを仕事として考える人間が育ってくるのかなと考えました。普段はその施設に通うことが難しい地区の子はオンラインで部活動の一環として参加したり放課後や土日は通ったりすることが出来る施設があると、継続した学びにつながるのではないかと思います。<br>・　もう一つのアイデアとして、そういった複合キャリア教育施設が出来た場合、例えば今不登校問題や、不登校で学校には通えないけれど自己肯定感とか社会性を学ぶ時に、やはり佐渡のある資源を利用して、佐渡の文化教育を利用して社会復帰が出来る事も考えられるので、日中は不登校になっている子が望めばそういった場を設けることが出来る施設等をかねて使う事も良いのではないかと考えました。<br>・　以上、廃校とか統廃合で出てくる建物の再利用ということで、新潟でいうとつばめ学校とかのものづくりの学校は、廃校利用しています。あと、世田谷ものづくり学校というのもやはり古い校舎を利用して、ものづくりのことを見える形でつなげていることがあるのですが、キャリア教育を各単独でイベントとしてやっても、佐渡でこういう取組をしているという、形は建物があって、そこに人が流れてくるラインがあると、より具体的に見える活動になるのかなと考えました。以上です。 |

| | |
|---|---|
| ・中川総務部長 | ・　ありがとうございます。今のご意見踏まえまして、市長どうでしょうか。 |
| ・渡辺市長 | ・　ありがとうございます。いろいろなヒントがあると思います。これからは地域移行になるわけですね。スポーツにしても文化にても、それが問題ではなくて、その中で何か発展的に出来ないかなと。要は学校に行けないけれど地域のクラブには行ける。そういうものも地域移行にすると、場所が学校になるケースもあるし、学校じゃないケースもあるし、様々なケースがある。実は、もう一つ部活動の地域移行をどう動かしていくかというのが、１つのヒントになるかなと思いました。<br>・　１つ僕がやったのは、Ｋｉｄｓ生きもの調査隊を立ち上げた時、生物多様性を学んでトキを学んでお米作りを学ぼうと、佐渡全体の子どもたちを入れようとしました。スタートは新穂の子どもばかりでしたが、そこから金井の子が入ったりして、今はそこそこに広がっているかなと思います。その子達は、今、役所に入っている子もいますし、凄く良かったのではないでしょうか。中国、韓国にも行きました。ああいう取組は非常に良いだろうなと。<br>・　昨日、七浦小学校の取組と松ヶ崎小学校の取組を持ってきていただいたのですが、まさしく、松ヶ崎小学校の子どもはこう言いましたよ、市長になりたいと。君は素晴らしいと。もう１人の子は、佐渡の中学校に行ったらもう一度佐渡をあれして、社会人になったら佐渡を元気にしてあげたいと。新潟から、東京から来た子は市長になりたいと言っていましたし、佐渡に残って貢献したいなって思う、この地域ぐるみの教育が必要じゃないかなと思います。<br>・　その根底はキャリア教育ですが、例えば、小・中学校で職場の学び方教育をやって、高校へ行くと我関せずになってしまうわけです。だから、その辺の一貫性がないと、子どもって高校の時にかなり大きな成長があると思うので、そこで新しい情報もかなり入ってくるので、その時にもっと力を入れないと、本当の意味で帰ってきてという話で、いわゆる、小・中学校までＫｉｄｓ生きもの調査隊で頑張っていた子が、高校に行ったら全く何も関係なく、何？という人も多いです。だから、小・中の後の高校の３年間というのは、結構重要かなと思っています。<br>・　そういう部分も含めながら、もちろん小・中でキャリア教育みたいなどんどんやってくるし、生物多様性とか環境の問題、佐渡は日本に向かって、世界に向かってチャレンジするということを理解してもらう。それを好きになる、誇りを持ってもらう、凄く大事だと思います。そこをどうつなげていくかというのは、前段申し上げたとおり、大変なのかなという気はしています。 |
| ・仲川委員 | ・　私の話は論点が違うかも知れませんが、少しキャリア教育について話をしたいと思います。佐渡市教育大綱を最初に作った時に関わった人間で、その後の基本方針等も全て関わってきました。佐渡の未来を担う三つの姿というのを考えたのは私ですが、大元にあったのはキャリア教育とは全く関係なく、せっかく佐渡というこのフィールドに育ったのだから、そのフィールド |

| | |
|---|---|
| | をいろいろと調べて自分のものにして、そこに佐渡市民というか、佐渡人というもっと土着的なものなのですが、佐渡人としての覚悟を持とう、それが将来アイデンティティにつながっていくだろう。そうした時に、将来の活躍の場所はどこでも良いのだというのが私の発想です。佐渡に残ってそのまま力を発揮してくれてもいいし、一旦出て力を付けて帰ってきて、佐渡では身につかないことを身につけて帰ってきてくれてもいいし、あるいは佐渡から外へ出た中で、心の中でいつも佐渡があり、何かの時に佐渡が出てきて佐渡のためになんとかしてあげたいというマインドを持ってくれている。そういうことでもいいと、一番初めのこの総合教育会議で立上げの総合教育会議でお話しをした覚えがあります。<br>・　それを、こういう形で取り入れて下さってありがたいと思います。そのことが、郷土愛を軸にしたキャリア教育という風に発展してきたと思います。<br>・　ただし、キャリア教育の本筋はこれではないと実は思っています。無理矢理くっつけたようなところがありまして、当時、佐渡学という言葉がはやりの言葉であり、それとくっつけてこれがあると思うのですが、元々はキャリア教育というのは、キャリアという１つの人生という言葉と同じですが、我々の長い人生の見取り図を若いうちから持つように努めようと、そして、なりたい自分の姿を描いてみようと。なりたい自分がわかれば、何をいつしたら良いのかという時間の経緯の中で自分の姿を考えることが出来る。その時々に慌てるのではなくて、将来的に変わっても良いが、こういう時にこういう努力をしておこうという見取り図ができる、そういうものを持とうと、そして、最終的にはなりたい自分になり、自己実現というのですが、そういうものにつなげていこうと。これがキャリア教育なんですが、それと郷土愛をつなげて、佐渡ではキャリア教育にしたということです。<br>・　我々が注意しなければいけないのは、いかに未来を担う姿をつくったとしても、これを子どもに強制してはならない。子どもが自由に選び取れるように子どもを育ててあげなければならない。決して対立概念ではないのですが、大人の視点であるとか、それから行政の視点で佐渡を担うものを残したいというのと、自己実現というのは対立概念ではないのですが、いつも我々は大人の都合で言っているのかもしれないなという反省を持ちながら、子どもの力を付けてあげる教育をしなければいけないだろうと、そういうものがキャリア教育に絡めての私の考え方です。<br>・　もう一つ、最近の資料はどこを見ても、学力の重要性ということを書くような資料がありません。なんでそうなってしまったのかと思います。知識偏重とか学力偏重とか言われた時代がありましたが、何かそれを恐れているのではないだろうか。私はたっぷり学力を身につけてもらいたいと思います。その学力が自分の将来を開拓する大きな財産になっていく。当たり前のことです。佐渡で医師が足りないとか、学力をつけて医者になって戻ってくれば良い。弁護士がほしいといったら、学力を付けて法学部にいって司法試験通って戻ってくれば良い。どんどんと佐渡の子どもたちに学力が身につく、そ |

| | |
|---|---|
| | ういう高校であってほしいなと思っています。<br>・　まとまらなくて申し訳ないんですが、どっちかを取ろうなどということではなくて佐渡を愛する心と学力をたっぷりつける心と、相対として立派な子どもを育ててあげたいなというのが、私のイメージです。 |
| ・中川総務部長 | ・　ありがとうございます。仲川委員から意見がありましたが、市長いかがでしょうか。 |
| ・渡辺市長 | ・　仰る通りだと思います。僕自身は、佐渡に子どもたちを貼り付けようという思いはないです。いつも言っていますが、南の島の人口減少で、僕本当に南の方の島の市役所の担当に全部電話しました、市役所として何をしてますかと聞いたら、キャリア教育と言ったところはどこもないです。なんとなく30 歳位になったら帰ってくるのですよという話でした。圧倒的でした。市役所は何もしていない。これは衝撃的な話でした。歴史も含めて考えていくと、どんどん勉強して医者になっても良いし、何になっても、海外に行っても良いと思います。<br>・　今の若い子は面白いなと思うところは、新潟に起業でくる子は、20 幾つで故郷に錦を飾ると言うのですよ。言葉を少し間違ってないかと僕は思っているのですが、故郷に錦を飾るというより、上手くいく目途がついたので地域貢献したいという話を、若いうちからしています。新潟に帰ってきている子は結構そうですね。僕らの頃にそういう考え方があったかというと、あまりなかったと思います。僕の高校の時はどちらかというと東京に行けと。とにかく東京に行って良い企業に入って、勉強して良い企業に入って、それが一番の幸せだという教育を受けてきたような気がします。ですから、大分子どもの雰囲気が変わってきていると思います。この地域全体の、日本全体の中央集権型のこの日本の国づくりの問題が、今の若い子には見えているのではないかなと、実はそれくらい思っています。佐渡に移住定住する、新潟に来る社長さんの話を聞いても、僕らの頃と全く視点が違います。そう考えると、どんどん出てもらってチャレンジする。チャレンジする機会はこちらよりも向こうのほうが多いので。チャレンジをしてもらって、それで気になったら帰ってきてもらう。しかし、その時に、地域から子どもたちを頼りにしているよというメッセージをしっかり伝える。例えば、佐渡は医者がいないから勉強して佐渡に帰ってきてねと。どこに行っても良いですよ。だけど、そういうメッセージをもっと出さなきゃいけないと思います。<br>・　学力は、やはりしっかりやるべきだと思います。佐渡から、僕も同級生が東大に行ってますので、彼らを見ていますから。本当に頭のいい人はやはり違うんだなというのは、現実に見させてもらいました、同級生で。努力すると佐渡の子でもトップの子は全然行けるというところをもっとと思います。これも夢の１つだと思いますし、そういう形で進めていただきたいなと思っています。<br>・　ただ、その中で必ず佐渡を知ってもらうというのは必要です。やはり弱点も含めて。よく僕は市民の皆さんとの話で、市長Ｕターンが少ないなんとか |

| | |
|---|---|
| | してくれと言われると、じゃあ自分の子どもにそう言ってますか、帰ってきてくれと言ってますかと話します。それは言えないといわれると、それは違うでしょと、それは違うのではないですかと、みんなそうだったら、誰も帰ってこないですよとなります。市長が帰らせるわけではないじゃないですかという話をするのですが、やはり僕はそういうところかなと思っています。だから、昔だと東京に行って、佐渡は盆と正月に帰るところだという感じでしたが、今は、本当に勉強して活躍して、佐渡を拠点に活躍してくれれば良いなという所もあるし、拠点じゃなくても応援してくれれば良いかなと思います。まさしくこの教育方針で子どもたちが頑張ってくれる姿を応援していきたいという思いは強くあります。 |
| ・池委員 | ・　キャリア教育についてですが、ここに書いてあることについては、かなり一生懸命、しっかり取り組んでいる内容が書かれていると思っています。私は新潟にいて９年前に佐渡に帰ってて一番驚いたのは、横断歩道で子どもが渡る時、車を止めるとほとんどの子がお辞儀をしてくれます。新潟はそんな子はいませんでした。そういうことが身についてきているというのは、挨拶という部分では驚いています。<br>・　それから何年か生活する中で、自分の身近な職員だったりとか、地域の人だったりが、民謡だったりとか狂言とかそういうものを実際にやっていますが、その数はやはり佐渡は多いと思います。そういうことになると、キャリア教育でやっていること、佐渡学といったものが、多分そこに住んでいる人たちに活きていくと思います。ただ、高校を卒業すると大学に進学するのが佐渡の子でも多いと思います。佐渡を離れて、そちらで生活すると、あるいは就職すると、佐渡に戻るためには佐渡が魅力的でなければいけないと思います。先ほど市長さんが言ったように、興味を持てる島になりたい。起業するのでもそういった条件が揃っていなければならず、ものすごく重要になってくるのではないかと思います。<br>・　例えば、新潟や佐渡にもいろいろ入ってきていますが、そういった環境が整っていれば、ここでやった人たちがやれる状況、あるいは就職し安定して生活できる基盤が出来れば、戻ってくる人が増えてくると思います。そういう風な環境づくりというのが、やはり重要になってくると思います。この前新聞を見ていたら、自転車チームも入ってくるし、その他にも松ヶ崎辺りでは離島留学という形で人が入ってくることが少しずつ広がっているので、それをいかに広げていって帰ってきやすい状況をつくるかということが一番大事かなと思います。<br>・　今、少子化によって、多様性、それからこちらの未来都市計画などにありますが、結局やはり人が集まってくることが大事かなと思います。佐渡は、金山とかそれから海とか山とか非常に良いものがあるので、そういうものが魅力的に映るような形、環境をつくっていくことで、人が集まり、そこで佐渡学とかキャリア教育を進んでいけば、そういった形が出来ていくのではないかと思います。かなり時間はかかりますけれど、それをコツコツとやって |

| | |
|---|---|
| | いく、キャリア教育はこのまま続け、入ってこれる環境を、今やっているように確かに進めていくということが、非常に重要なのではないかと思っています。以上です。 |
| ・岩崎委員 | ・　皆さんのお話をお聞きして、私自身もＵターンで帰ってきた人間で地元に嫁いでいるのですが、その中で、Ｕターンする前に、自分が島外で生活していた時に、自分の故郷を思い浮かべた時、何が一番出てくるかというと、やはり食べ物です。食べ物と山とか海というのが最初に浮かんできて、そうするとやはり帰りたいなと思いました。私は新潟市内に住んでいたのですが、懐かしくなると海まで行って、海岸で佐渡を見て懐かしむというか、そういうのって若い方とか子どもたちにとって凄く大切だと思います。島を出てふと故郷を思い出した時に、そういう体験とか思い出というのはやはり凄く大切だと思います。その中で、私は仕事柄とか環境的にも食に関わることが多く、学校でも地域も、今関わっているのですが、その中でよく学校の方で食育の方のことに携わることが多くいです。先日も地元の小学校で、地元で採れたサツマイモのスイーツをみんなで作ったのですが、その時、１年生の目の輝きが違いました。食べ物を作るとなると、給食以外の食べ物が食べられる、作って食べられるということで、子どもたちの目の輝きが違うと思いました。佐渡は凄く食材に恵まれていますので、一番理想的なのは、自分たちで作って、作る過程で収穫して、最終的には自分たちで調理してというのが、一番地元にあったキャリア教育じゃないかなと思います。 |
| ・渡辺市長 | ・　今、池委員が仰ったように、多様な働き場所を作っていくというのは大事だと思います。その中で、就任してから取り組み始めたのが、ビジネスコンテストです。その前も起業をやっていましたが、何故ビジネスコンテストかというと、特殊な、通常のものではない、将来性のある若い人たちを集めたい。だから普通じゃない、今までと違う視点のものを集めたい。普通の視点というのはほっておいても作っていくので、現にカフェとかそういうのは今かなり増えていますし、多分これからゲストハウスみたいのも増えてくると思います。古民家改修、これは多分ビジネスになるはず。ビジネスになれば増えていくと思うので、そういうものも大事なので支援はして進めていきたいですけれど、やはり、ＩＴ企業にしても多様な働き場所です。それがビジネスコンテストでいくつか出来ている。そこで働ける環境を作っていくというところが大事かなと思います。<br>・　もう１つ、やはり我々が本気でやらなければいけないのが、住む場所の問題で、空き家の問題とか、家が空いていても貸してくれないとかです。今、何がおきているかというと、周辺部から全部、両津だと加茂歌代、金井だと市役所の付近、山の方、佐和田も山の方、そちらに全部若い人が集まってきています。周辺の空き家がどんどん増えて、真ん中に家が建っているという面白い状況になっています。ですから、住む場所を地域で住めるような仕組みもいるのだろうと。わざわざ真ん中に大きな家があるのに、家建てなくても良いのではないだろうか、等いろいろなことを思います。そういう部分も |

| | |
|---|---|
| | あるだろうと。それが、ＵもＩも魅力的に映ってくれる仕組みであれば。だから古民家をリノベしていくというのが一番良いですし。私自身もこれから市営住宅は一切作る気はなくて、市営住宅は全部リノベで考えてくれと言っています。今あるいろいろな施設を借りてリノベでやってくれと建設部には言っています。そういう所は取り組んでいきたい、もっとやっていきたいと思っています。<br>・　そして、岩崎委員から言われた海の思い出、ここが１つ大きな問題かなと思っています。僕らの子どもの頃は海も山も行って、山がどんな形状でどこにカブトムシがいて、海に行くとどこにサザエとアワビがあってと、ずっとわかってましたが、今の子は危険だから子どもだけでは行けないです。現実に子どもが海とか山で遊んでいる姿は、正直あまり見たことがありません。僕の家の前なんかも歩いて 15 分位で海ですが、全然いないです。<br>・　相川は集落が離れていてそれぞれ祭りがあります。祭りがあって若い子が小・中から祭りに参画するような集落の方が間違いなく若い人が残ります。祭りのないところというのは、やはりあまり残りません。相川は集落が小さくて、たくさんあって、見ていると傾向が見えるのですが、やはりそういうものがあると思います。仰るように、食とか祭り、文化というのは、子どもたちの佐渡を好きだという思いの大事なところだと思います。なんとか復活してもらいたいと思っています。 |
| ・中川総務部長 | ・　ありがとうございます。皆さんからご発言いただいていますが、今市長がお話しをいただいた事に対してでも結構ですが、更にキャリア教育について何かご発言がある方は、いらっしゃいますか。 |
| ・岩崎委員 | ・　付け加えてください。私も小学校や中学校のキャリア教育の内容を拝見させていただく機会も多いですが、私自身漁業に関わっているというのもあって、農業は一生懸命取り組みやすいというのもあるのですが、漁業、海の事はそういう教育の中ではあまり入りにくいんだなというのがあって、是非海も取り入れていただいたらと感じています。 |
| ・渡辺市長 | ・　教育に欠けているのが林です。海もないですが、林業の話、山の話は抜けています。山が抜けているというのは凄く問題で、実は日本的にも凄く問題ですが、トキとか生物多様性とかをやった時に、実は農業、水田とか湿地だとかラムサールとか、そこがずっと注目を浴びていましたが、10 年くらい前から森里川海という森と里山と川と海、これが全部ワンセットで生物多様性だという取組が、国家的に提唱されています。今、森里川海ということで、いろいろなことをやっています。ただ、範囲が広くなりすぎて子どもたちには難しいのかなというところもあります。<br>・　もう一つは、森と漁業はなかなか教えるのが難しかったり、現地が危険であったり、様々な用件がたぶんあるのではないかという気はします。森は人為的にできるのですが、物理的には何も出来ない。事実として知るだけというか。農業は自分で変えられますが、森や海は、知る事は出来ますが、それを自分の力で今何かしようかというと、全体、国とかもそういう方針が見え |

| | |
|---|---|
| | ていないから、教えるのも難しいかなという気がします。現状、知ることはできます。 |
| ・新発田教育長 | ・　海の方は高千小学校ですとか、内海府小学校で船に乗せてもらったりといった経験をしたり、学校によっては森づくりということで両津吉井小学校がしていますし、松ヶ崎地区は昔から学校林をやっているので、学校の環境に応じてやっています。田んぼについても学校田があればやるという感じで、それぞれ場所によってというところはあるかと思います。確かに教科書の取り上げられる量とかとなると、どうしても海だとか森は少ない状況かと思います。その辺り佐渡の特徴という事を考えれば、その学校の環境を活かすということが大事かと思いました。 |
| ・岩崎委員 | ・　参考までに。私も活動しているのですが、新潟県に魚食普及の会という漁師のお嫁さん達が、学校も行っているのですが、魚をさばいたり、さばき方の伝授に行ったりと、そういうこともしていますので、そういった所を活用いただければと思います。 |
| ・新発田教育長 | ・　羽茂小かな、魚をさばくのをやっていましたね。 |
| ・岩崎委員 | ・　はい。何件かやっています。 |
| ・森学校教育課長 | ・　前浜もやってます。水津でも。 |
| ・池委員 | ・　今、市長さんが言われたように、林業は本当に切実に思っていて、キャリア教育はもちろんですが、佐渡自身の林業自体がかなり大変な状況と思います。私の住んでいる地区にかんび山というのがありますが、そのかんび山が、年齢が上がってしまって、管理する事が出来ない状況が近づいていて、それはうちだけじゃなくて、他の所もどんどん出てきていると思います。せっかくこれだけの森林がある所ですが、なかなか手が回らないというのが実情だと思いますし、なんとかできないかなと思います。ただ、現状ですぐにどうやるこうやるという事はなかなかないのですが、今考えていかないと、あと10年、20年経つともう完全に手が入らないような、全部荒れた山になってしまう気がして、そうなると子ども達にキャリア教育というかたちでも、見せる場所がなくなる状況になるのではないかと思います。どこからどうやるかは、本当に難しいところだと思いますが、何らかの形で考えていかなければ駄目かなと思いました。うちの地区の山ももうしばらくするとなくなる、手を出せなくなるかもしれないという状況です。<br>・　それともう１点、ここにあるキャリア教育の推進の中で、地域が大きな役割を果たすと思いますが、先ほど市長さんの方からも祭りの話がありました。地域の中の一番下の連携のポイントの中で、地域行事や公民館活動などに子どもを含む多くの住民を巻き込むとともに、積極的な参加を促すということがやはり大事です。社会教育課もそれなりの場面とかを作りますが、学校の教員をやっていた立場からいっても、子どもがここに入るという事はなかなかないです。逆に、学校側からこれ出てくれないかということを頼む機 |

| | |
|---|---|
| | 会がありました。何が原因かわからないですが、見ていればわかるかもしれないですが、そういったことが大事なのですが、なかなか進まないのが現状だし、かなり苦労している多くの部分がここかなという気がするので。祭りでわいわい騒ぐのは、本当に良いと思います。そういうのは本当に喜びますから。何とかしたい部分だと思います。 |
| ・仲川委員 | ・　先程の森林の話ですが、キャリア教育からは離れてしまいますが、私は２つの山の入会権持っています。自分のグループの管理する山がどこにあるのかよく分かりません。行きましたが覚えられません。山は荒れています。その中で、なるべく早く、表面、表の権利は我々が持っているのですが、土地そのものは佐渡市の所有だと思いますが、佐渡市として引き取ってもらえないかという話をしています。誰か代表になってちゃんと引き取りにいってもらえ、という話まで出ている。そういう状況ですので、佐渡市で声を掛ければ、大きく佐渡市の森林が増えるのではないかと思います。そうするといろいろな運営が出来るのではないかと思います。キャリアの話と全く関係ないですが、本当に瀬戸際の状態だろうと思います。 |
| ・渡辺市長 | ・　仰るとおりです。引きとれるかどうかというのは、またいろいろあると思うので、本来であれば国がいろいろ考えるべきだと思います。日本全国の問題です。今の代が終わると多分登記も出来なくなると思います。僕も正直申し上げて分かりません。どこからどこの山なのか全くわかりません。山については、皆さんが想像している以上に荒れています。杉が 50 年超えるか超えないか位になると、ほぼビジネスにならないです。広葉樹林を見ていくと、もうスカスカの広葉樹林です。切らないから再生しないのです。かなり荒れているので、抜本的に考えていくしかなく、小手先ではもう無理かと思っていて、これは大きな課題です。本当は林業に子どもたちが興味を示すような事があると、自然を学ぶとすると、やはり山を学ぶというのが基本的には大きな教育の方針なので、山を学べば海も学べると思うのですが。 |
| ・新発田教育長 | ・　話を戻すようですが、中学校までこうしていろいろ体験をしたり、学習をしたりしてキャリア教育の場面も含めて、自己実現を図るべく取り組んでいるわけですが、高校にどうつながっているかが不明瞭です。高校は一生懸命やっていただいているのでしょうが、その辺りを私たちがよく理解する必要もあるかなと思います。それをすることによって中学校の総合的な学習の時間のあり方を見直すということもあると思います。最初にお話ししたように、そこを今後どのようにつなげていくか、私は結局分からないでいて、今、総合、企画の方からも教育コンソーシアムを一生懸命やっていただいているところですが、島留学も含めて探求学習というんでしょうか、高校でいえば、そこの中身のつなぎを佐渡市として作れるかどうかというのはこれからの大きな課題になるのではないでしょうか。<br>・　それから、最初にあった伝統芸能、食の話、林業や海のことについては、最終的には仲川委員が仰るように、自己実現という大きなところ、自分自身の夢をかなえるという形になれれば、佐渡の子どもたちにとって一番幸せに |

| | |
|---|---|
| | なれるのではないかと思います。その辺り、どうしたら良いかというのはなかなか答えが出ないのですが、一生懸命そこの所をつなげればという思いがあります。<br>・　実は、保育園・幼稚園については、子ども若者課に協力していただいて、なんとか一緒にやっています。ただ、学校教育と教育委員会として足りない部分も沢山ありますし、子ども若者課さんの方にお願いしている部分も沢山あるわけですから、また一緒になって、子どもをトータルとして育てていく。もちろん、個々で分担する分と、トータルで育てていく部分の２つの側面から見ていくのかなと感じているところです。ただ、具体的にどうすると言われたらなかなか出てこない。皆さんからお知恵をいただければ有難いと思っております。 |
| ・中川総務部長 | ・　ありがとうございます。何かご発言のある方いらっしゃいますか。今後も一緒に考えていけるところではあろうかと思います。<br>・　そうしますと、子ども若者課とか組織的なことが出てきましたので、次の所で、教育委員会の組織という部分の中で、そういったことも踏まえてご意見等いただければと思いますがどうでしょうか。資料等の中で、県内いろいろな背景があります。 |
| ・仲川委員 | ・　この事務局組織について、そちらの方で何か言いたいことがあって議題に入れたのだと思いますが、何故今日これを出したのかという趣旨説明をお願いします。 |
| ・新発田教育長 | ・　４月からも、こども家庭庁でしょうか、いろいろなところで縦割りの問題があり、そういう中で、子どもをまるごと育てるというのもありますし、一番初めに発言したように、令和４年４月１日に佐渡が島条例（たからじま条例）も出来て、佐渡市として子どもをしっかりと育てていきたい、そのために親の支援もしたい、というものが佐渡が島条例（たからじま条例）で定められているということがあって、今までも言ってきた縦割りの問題だとか、そういうものをどういう組織がより有効的に働くのか、どこの連携を強めていけば良いのか、あるいは組織そのものを全く見直した方が良いのかということで、少し他市も見たところで語っていただいたところです。これを今回周知させていただいたという状況です。 |
| ・渡辺市長 | ・　補足しますと、考え方としては、僕らも仕事をしながら、そもそも保育園と幼稚園の垣根というのが制度的にはありますが、佐渡において現実的に垣根がそんなにあるのかということです。だけど、僕が話を聞くと、厚労省だからとそんな話になります。子どもに厚労省も文科省もないだろうというのが僕の発想です。そこが１つです。そして、小学校もずっと課題だなと思っていて、中等へ行くと県だからということになってしまい、そこも何か少し一体的に子どもを見るということが欠けている気がします。<br>・　そして、例えば、松ヶ崎の移住、子ども達の移住、これも教育委員会が本当に頑張っているかというと少し違う気がしています。教育委員会はどうしてもその事業を学校の義務教育内だけということに縛られている気がし |

| | |
|---|---|
| | て、それ以外のものというと少し臆病になっているというか、手が出しにくくなっているのが今の教育委員会の組織ではないかと思います。今、羽茂高校に島留学で男の子が２人来ます。これも全部総合政策課がやります。高校のことになると教育委員会は、これは僕らの所ではありませんと言う話になります。これは別に今の教育委員会というわけではなく、歴代ずっとそうです。でも、先ほどから議論してきている佐渡の子どもたちのキャリア教育も、それは高校に行ったら県の役割、僕はそれもかなり違和感があります。そういう部分では、佐渡内、特に子どもを育てるというのは子どもの数が減りながら、本当にしっかりと教育が出来る環境が逆にあるので、例えば、ネットで佐渡市直営の高校のレベルの高い塾みたいなものをオープンしても良いかなくらいに思っています。需要があれば。多少料金はいただきますが、それは市が交渉をして企業のどこかと組んで夜ネットで配信する、高いレベルの学びをやるために。離島のハンデをなくしてやると、そういうことは別にやっても良いと思っています。<br>・　全体的に子どもを育てるという時、行政組織として本当にこれでいいのかとはずっと思っています。そういう中で、教育長に、うちの方も本当にどういう先が良いのか。１回教育委員会さんで議論してもらえないかという話をしているのが、この形をすぐどうにかするとかいう、そういうことではありません。そこの議論をしっかりしていきたいと思います。正直、教育委員会に「高校〇〇係」というのを作って、高校の子どもたちを支援する係が教育委員会にあっても良いと思っています。<br>・　一方、文化とか教育というのは、国からも来ているように、偏っているところに文化もシフトが置かれているわけです。そういう部分で考えると、生涯学習とか教育委員会がやっている公民館活動とかスポーツは、実は高齢者の元気づくりや健康寿命に全部重なってくるわけです。だから、仕事がメインになってしまうと、教育というよりも地域づくりになって社会教育課になっているのではないかと。そうすると、よその所の生涯学習課みたいな形にして、スポーツを市長部局に持ってきて、子若、子どもたちの部分と新たに高校の〇〇係を作った形で、生まれる前の話をどうするかとか様々な問題があるのですが。生まれてからある程度一貫して教育委員会で子どもたちを面倒見ていけるような仕組みはどうかと頭の中にあります。<br>・　そうすると、政策も含めていろいろな形が少しきれいに分かれるのかなと思っています。文化をどうしようかというのもあるのですが。趣旨としては、そんなことをみんなで議論しましょうというところです。 |
| ・池委員 | ・　これを見させていただいて、最初に思ったのは、子ども未来課、子育て支援課と他市町村の方も、教育事務局の方に入っていますよね。佐渡市だけが、子ども若者課が市長部局になっています。これは何かあるかどうかと思いました。<br>・　それから、今市長さんが言いましたが、高校に関する教育委員会の関わりというものがこれを見てもわからないと思いますが、他の市町村の中で、そ |

| | |
|---|---|
| | ういった形で高校関係の、県の方がどうしても出てくるのでその辺との連携の部署があるのかないのか、その辺をちょっと調べてみると、方向性が出てくるものがあるかなと思います。<br>・　それから、新潟市の方は市立高校をもっているので、それについては市がやっているかなと、これはちょっと特別な形ですが、この辺の様子も確認してみて、新潟市は他の高校との関連がどうなっているのとかも確認してみると、少しでも手掛かりが出てくるかなという感じがしますので、そんな形で長い目で情報を集めていかなければいけないかなと思います。 |
| ・仲川委員 | ・　子どもが生まれてから一定程度成長するまでの期間、全て佐渡市の教育という形で、トータルで見れれば良いという発想だと思います。その時に市立と県立ということで、権限が当然出てくるわけで、その権限を取り払うことは当然出来ませんが、上手に連携できるのか、その為の組織とはどうあるべきなのかという事だろうと思います。<br>・　その場合、今の市長さんの前の市長さんがこの子ども若者課を立ち上げたんじゃないかと思いますが、私はとてもクリーンヒットだと思っています。こうやって子どもとか若者という名前をしっかりと出して、ここが担当するんだということを明確にしたことは、相当前進があったと思いますので、私はこれが教育委員会の組織になっても、市長部局の組織になってもどちらでもいいことだと、実は思っています。連携さえしっかり取れれば。そして、コンソーシアムも立ち上がりましたので、そことの意見調整をしながら高校の教育内容の一部に、教育委員会なり市長部局が関わって良いかどうかということを、よく皆が納得するような話をしないと難しくなりますので、意見交換しながら慎重に、あるいは時には思い切って進めてもらいたいと思います。<br>・　今年、２名の島留学の高校生が来るということですが、多分、高校側は不安だと思います。それは、自分たちの発想で受け入れたことではない、つまり、佐渡市が総合政策課の方で音頭を取りながら進めたことでありますので、関わりがあまり大きくなかったのではないかなと思います。どうでしょうか。例えば、普通は身元引受人というのが、島の外から来られたら、高校生の場合、佐渡市が身元引受人になるのかどうか分かりませんが、条件整備が本当にされたのかどうかというのを心配しています。何を求めてきたのだろうかというということも、よく確認しないとならないと思います。これからスタートするわけですので、あまり不安を持ってもいけませんが、どこまで条件整備をして動いたのか懸念を持っています。 |
| ・笠井総合政策課長 | ・　今の件につきましては、昨年から羽茂高校の教頭先生中心ではありますが、準備の段階から地域おこし協力隊を私どもの部署に１人置いています。その子が元々高校の教員経験、資格を持っている子がたまたま協力隊に入ってくれたのですが、その子を中心に羽茂高校と行き来しながら、受入れの準備を直接的にやってきました。受入れに当たり、面会や、学校に一度保護者の方とおいでいただいたりした時も、高校と一緒にずっと寄り添う形で、 |

| | |
|---|---|
| | 今回２人の受入れが実現しましたので、方向的にはずっと羽茂高校との部分も保護者や生徒にレクチャーしていただいた上で、羽茂高校を選択してくれた状態なので、あとは３年間無事に立派な大人に育てることが私たちの使命かなと思っていますので、そこも教育委員会と学校と一緒に、地域もそうですけれど、連携していきたいと思っております。 |
| ・仲川委員 | ・　身元引受人という立場は、佐渡市の総合政策課が担当するということですか。 |
| ・笠井総合政策課長 | ・　そうです。ただ、サポート体制という部分では、今申し上げた学校であったり、羽茂支所であったり、教育委員会の協力も仰ぎながら、あと、メンタルケアで保健師さんとも打合せもしながら、準備をしております。 |
| ・仲川委員 | ・　余計な心配だといいと思っていますが、あの年頃はなかなか大変です。順調にいっている時は、誠に順調ですが、順調にいかなくなるととてもいろいろなことが付随して起こってきますので、くれぐれも増えれば良いという視点ではなくて、こういう教育を求める人間を呼び込む、というその筋を通した方が私は良いと思います。 |
| ・笠井総合政策課長 | ・　ありがとうございます。 |
| ・岩崎委員 | ・　私は、学校の方でコミュニティスクールに関わっているのですが、日頃から社会教育課のあり方とかを見直した方が良いかなと思っています。今、この資料を見ると、例えば、新潟市では、地域教育推進課というものがあります。こういう部署があると、地域コーディネーターさんやそういう方が直接相談出来るというか、先生方もそうだと思いますが、コミュニティスクールが上手くいくのではないかとは思うのですが、いかがでしょうか。 |
| ・市橋社会教育課長 | ・　コミュニティスクールに関しては、地域づくりということで、社会教育課はほとんどタッチしていません。組織的には学校教育課に担当が分かれていて、コミュニティスクールをやっています。ただし、は地区の公民館長とか、人数まで決まっているものですから、各地区に教育事務所があり、教育事務所の職員を入れてほしいということで、そうすれば関係できるというところがあるものです。そういったところが、今まで我々が入っていなかったところがあるのは十分承知していまして、その運営にもあまり関わっていませんでした。出来れば、私たち各地区の公民館の職員がいますので、その職員も入って地域とコーディネーターさんと連携が出来ると良いかなと思っています。<br>・　それと、共同本部がありまして、一緒にコーディネーターがやられています。その共同本部は我々の所であって、放課後子ども教室とかそういう所が、学校の範疇ですから、会議とかそういう時には我々も行きますが、学校の先生がやりたいことをやるというところが基本的にあります。ですので、協力していくということで、会議とかいろいろ出るようにしています。この後も放課後子ども教室を各学校に作りたいと動いていますので、しっかり話し合いをして、学校と連携できる形をどうやったらできるか考えていき |

| | |
|---|---|
| | たいと思います。 |
| ・仲川委員 | ・　子ども若者課長さんがいらしているので、正直なところをお伺いしたいのですが、前に子ども若者課の対象年齢を聞いたことがあります。39 歳までだとそういうお答えでした。本当に仕事いっぱい抱えていらっしゃると思いますが、子ども若者課長さんとしてはこの子ども若者を 39 歳までの方と限定して仕事をした場合に市長部局にいた方が良い仕事が出来るか、教育委員会に組織替えした方が良い仕事が出来るか、そこの所は率直にどう思いますか。言いにくいところもあると思いますが、我々が本音の所がわからない所があるのです。 |
| ・市橋子ども若者課長 | ・　私は正直、前段でキャリア教育の話とかいろいろありましたが、やはり生まれてから概ね 18 歳までが法律でいう子どもという定義でありますが、その時にきちっと関わりを持つことが将来的な大人になった時に、佐渡の子どもとして育ち社会人になるというステップを踏んだ方が良いと業務の中から思っています。私は子どもの部分に関して、教育も福祉も含めてですが、教育委員会の中で一緒に業務をさせていただくことが出来ると、子どもはターゲットが１人ですので、周りの大人が変わったとしても、子どもに関することを一緒に考える環境というのがあるといいなと考えています。<br>・　一方、若者という部分も持っておりますので、そこの部分は教育委員会というものからは外れるかもしれませんが、今、どちらかというと私どもが関わっている若者は、小学校、中学校、高校でどうしても学校に行けなくなった子ども達とか、家庭的なご事情でご自宅にいるような子ども達が、なんとか一歩前へ踏み出して、働きたい、学びたいといったご相談を承っていることが多いものですから、そこを打開することで、若者の部分はどちらかというと、就労支援とか障がい支援、社会福祉部門になります。そちらの方へ移行していくことが大きいのかなと思って、今年度からは社会福祉部の中でも引きこもりの業務を社会福祉課の総合相談窓口に移行したところです。将来的には、池先生が仰ったようにいろいろな調査は必要だとは思いますが、今業務をやっている中では職員間の連携を取っているとはいえ、やはり不備な部分が多いだろうなというところは感じています。 |
| ・中川総務部長 | ・　その他いかがでしょうか。ご発言のある方。宜しいでしょうか。<br>・　今回がきっかけというような形で、今後いろいろな形で議論を進めていただければなと思いますので宜しくお願いします。<br>・　次に議題の２であります。佐渡市ＳＤＧｓ未来都市計画について、事務局の方から説明をお願いいたします。 |
| ・笠井総合政策課長 | ・　それでは、資料２をご覧ください。ＳＤＧｓ未来都市の計画自体はあらかじめ委員の皆さんにお目通ししていただいたとお聞きしております。本日は時間の関係もありますので、簡単に概要と関連事項などお伝えします。提案のポイントとしましては、全体計画の概要にキーワードがにじんでいるのですが、佐渡独自のトキと金銀山などの文化が、やはり佐渡としてのオンリーワンであり個性的な地域資源だと思っています。様々な伝統文化、歴史があ |

| | |
|---|---|
| | る中で、ＳＤＧｓの概念である環境と経済と社会、そこと歴史・文化を如何に循環させて、元気な島を作っていくかというところが提案のポイントで整理をしてきました。<br>・　取り組んでいく内容については、全ての施策がＳＤＧｓにほぼ繋がっている状態ですので、自然体で今取り組んでいることを、文言に落としていき、その結果、一定の評価を頂いたというのが現状です。<br>・　関連しまして、今回の２月の定例会でＳＤＧｓの推進に関係するような、文言的に難しい言葉を使っていますが、ローカルでＳＤＧｓを回していくということがこの地域循環共生圏の考え方のようですが、この持続可能な島づくりの推進条例を、今定例会で提案して、23 日の最終日に採決いただけるものと思って、お待ちしているところです。この条例に関しましても、申し伝えた歴史・文化と環境、経済、社会を好循環させるというところが、他の自治体にはない 18 番目の目標が、歴史・文化の継承であるというところが、個性的な佐渡市の売りであり、評価の中でも、評価委員の先生方からも人口減少対策の鍵にした高質な提案であるなど、良い評価をいただいて選定を受けています。<br>・　簡単ですが、以上です。 |
| ・中川総務部長 | ・　説明が終わりました。これより意見交換ということで、発言される方は挙手をお願いします。 |
| ・仲川委員 | ・　資料ありがとうございました。数日前にいただきまして、まだ私の理解が浅いと思いますが、一度目を通してみました。理解が浅いので深い質問は出来ませんが、全部通して見て思ったのは、今佐渡の現状が何も手を打たなければますます少子高齢化が進み、これから尻すぼみになっていくという状況が目に見えていることです。新しい産業を興せず、経済的困窮者も増えるだろうという状況の中で、ますます閉ざされた島になるか、あるいは外に開かれた島としてこれから挑戦するか、そして再生していくかの分かれ道に今あるんだろうと思います。ということで、このような計画を立てていただいて、大変私は嬉しく思います。是非これを元に進めてもらいたいし、これを上位計画として下の方に具体策をしっかりちりばめて、今現在起きている諸問題を解決してもらいたいと思います。<br>・　例えば、限界集落はどうなるのか。１つも出てきませんでした。医療介護をどうやっていくのか、これもあまり出てなかった気がします。交通網をどう整備していくのか、ＭａａＳという言葉は出てましたが、ＭａａＳで解決出来る問題と出来ない問題があります。ＭａａＳは基本的には公共交通をどうやって動かしていくかという視点かと思います。では、道路建設はどうするか、佐渡に市電を通すのか、別なアイデアがあれば良いですが、何も解決に導くようなプランは示されていませんでした。是非ＳＤＧｓに則るような形の具体策を組んでもらいたいという感想とお願いです。<br>・　それから、質問ですが、気に掛かる文章がありまして、このいただいた中のサブタイトルですが、里山・里海文化で里山と里海を中点で分けています。 |

| | |
|---|---|
| | 普通この言い方は使わないのではないか。一つのフレーズになってしまっていますから、里山里海で１つの単語で、それから、自立・分散型社会も中点は付けないようになっていると思います。ちょっと気をとめて、何故付けたんだろうと考えてもらいたい。<br>・　もう一つ、自立の「立」は本当にこれでいいんだろうか。おそらく自ら律する、セルフコントロールの方の「律」を佐渡の場合使った方が良いのではないかと思います。何故そんなことをいうかというと、例えば、経済の問題で佐渡が自立出来るとは、私は 2030 年までに目指しても出来ないと思います。佐渡の実財源というのは歳入の１割弱 50 億円足らずだと思いますが、本当に実財源が１割に満たない自治体が自立という言い方を使えるのか。それから、エネルギーにしても、どこかで化石燃料を手放す方向にいければ良いけれども、それが 2030 年に間に合うとは全く思えません。そういうことを前提にした時に、この「立」の字は、ちょっと難しいだろうと思います。そうすると、もう一つの自律分散型の「律」の方は自ら律すること、他者の考えを参考にする程度の、一線を画して佐渡独自の物差しでそれぞれの行動を設定するという形の社会の形成ですので、「りつ」の字は律するの「律」を目指す方が良いと思いました。この文章を作った人が「立」のほうがいいと思って付けたと思いますが、その辺りの考えを聞きたいと思います。 |
| ・笠井総合政策課長 | ・　ありがとうございます。自立の部分は、仰るとおりで、いろいろ書き物を整理していく中で、両方使われているところも事前に知りました。あえて「立」自立の方が、自立するだろうと。作文上の私の好みもあり、見やすさを重視して中点を入れました、教育現場の方々のご意見を聞いて、いろいろと考えていけば良かったのかもしれませんが、有識者の方々からもコメントいただきつつ、見せ方としてこの文言と中点を使うような整理にさせてもらっています。 |
| ・仲川委員 | ・　決して非難しているわけではありません。頭も素晴らしいと思っています。 |
| ・渡辺市長 | ・　ちょっと説明します。自立・分散型というのはそもそもローカルＳＤＧｓという概念から出来てきている言葉です。ローカルＳＤＧｓというのは地域循環共生圏という環境省が提示をしているのですが、地域の中で循環型社会を作っていきましょうということです。そして、その小さな循環型社会をエネルギーも含めて自立が出来るようなそんな仕組みを作りませんかということで、分散なのです。自立・分散は分散という言葉がわかりにくいと思うのですが、分散というのは逆にいうと佐渡は佐渡だけで、今までみたいな横の水平ネットワークの中で生活をする経済圏ではなくて、基本ベースは佐渡の中で、分散をされた小さな自立型社会を作っていきましょうというのが、この地域循環共生圏という概念です。これを作った人といろいろ話をさせていただきました。<br>・　中点は、僕はないほうが良いと思います。仰るとおり、里山里海は１つの言葉ですし、そもそも自立と分散は離れているわけではなくて、自立分散型 |

| | |
|---|---|
| | 社会というものなのです。ですから、自立する訳ではない。自立と分散を組み合わせながら小さな循環型の、人が生きるための無駄を省いた循環型の社会を作っていきましょうというのが、自立分散型社会なので、僕自身はこれで全部が自立するとは思っていません。<br>・　例えばエネルギーをどの程度、島内で循環させていけるか。エネルギーが循環していけば、エネルギーに支払っている金が、電気料だけで佐渡の場合、約 90 数億です。10％電気料を佐渡で発電すれば、９億、10 億の金が佐渡に。油も肥料もあるわけですね。ＥＶにして油を買わなければ、油のコストも下がるわけですから、こういうものがまず自立型分散型で、循環型が出来るだろうと。佐渡の場合、もうひとつは食の循環をもっとしたい。うちには、食がこんなにあるのに、何故こんなにコンビニに行ってみんな買うのかという話なんです。さっきの「さどごはん」もあったのですが、「さどごはん」であると、地産地消率がほぼ 100％になるのに、同じ食材があっても佐渡の地産地消率がかなり低くなるというのは一体どうしてなのかというところがあるわけです。それは、逆にいうと地域の力であって、地域の人が地域のものを食べようという事ではなく、１年中トマトを食べようと。今、農協にいっているのは、１年中トマトを食べようという要望があったら、うちで作るかという話もしています。それにしても、佐渡中の１年中はまかなえないわけです。まかなえる循環型経済とまかなえない部分を、どういう風に変えていこうかという議論です。食についてはこういう議論を進めなければいけない。<br>・　そして、もう一つ僕がやりたいのはゴミです。ゴミを全部資源に出来ないか。例えば生ゴミは出さない。おむつは便とかいろいろなことがありますので、そのゴミをもう少しできないか。実は、自立分散といってもその程度のものを自立分散しながら、佐渡の独特のこの島での経済活動を動かしていきたいという感じです。100％とは認識はしていないです。<br>・　僕自身はそういうイメージで、この地域循環共生圏という仕組み、これをローカルＳＤＧｓの、分かり難いですけれど、地域循環共生圏はやりたいのですが、それは、ローカルＳＤＧｓはＳＤＧｓの地域版という訳し方があって、そのＳＤＧｓの地域版ってなんですかというと自立分散型社会となって、こういう形です。<br>・　ですから、言葉の「立」が良いのか「律」が良いのかは別問題ですが、僕自身は「りつ」という言葉、昔、永六輔さんが佐渡独立論を言われていましたので、僕はエネルギー以外はやる気があれば出来ると思っています。お金は別、経済は別です。それは国の方で。交付税は国からもらうものではなく、国が配分するのだと思っています。そのために国民を、佐渡市は生活を守っているので、その分のお金だと思っています。<br>・　よく考えると、この話を職員にもほとんどしていなくて、前にどこかで１回か２回したくらいです。自立分散型というのはそういうイメージで捉えています。 |

| | |
|---|---|
| ・笠井総合政策課長 | ・　環境省のローカルＳＤＧｓ、地域循環共生圏の定義の中でも、こちらの自立を使っている。あえて中点を入れていたりするような所もあったりします。両方やはり使っています。 |
| ・仲川委員 | ・　この分散型というのが特に言われるようになったのは、コロナで東京一極集中は危ない、だから極をいっぱい作ろうということで見直しをしながらいろいろな機能を各地に分散させようという所から来たのだと思います。<br>・　それから、今の市長さんの発想は、国と地方の関係ではなくて、もう一つ地方の中における分散という発想がそこにおそらくあるのだろうと理解しました。<br>・　私は、常々逆だと思っていました。この機会に地方は、例えば先ほど限界集落と言いましたが、あまり分散を進めないで集約をして、例えば住居ゾーンのようなものをしっかり整備をする方がコンパクトで良い町が出来るのではないだろうか。そしてその中心に病院であるとか、公共施設を置いて、そうすると医者不足ということも若干解消に向かうし、それが、全部は無理であれば、後期高齢者が中心に住めるような町をどこかに集約して、そこに医療福祉介護の機能を置くと。若者は具合が悪いときにそこに行くという形の、何か大きな見直しを佐渡全島で、分散をやるのだけれども、集約機能の方が効率が良ければ集約をするという考え方を入れておかないと、問題は深刻化するだろうという考えです。エネルギーもそうです。先ほど蓄電池の話をしましたが、それも中心部にしっかりと蓄電池をゾーンにでも分けて置いておけば、全部が一斉に壊れることはありませんので、お互いに補完し合いながら、ある一帯については、災害は少なくなるという状況が生み出せないだろうかと思っています。分散という言葉にあまり皆さんが一気に分散だと言わないで、分散の良いところと集約の良いところと使い分けをした方が良いかなと思っております。 |
| ・渡辺市長 | ・　仰るとおり、基本的な概念はそうです。完全な分散というのは、エリア内の分散は一定程度拠点拠点の分散は考えていますが、広い意味での分散ということではないイメージです。それは職員に言いながら。ただ簡単ではないですね、まちづくりは。市民合意がいるので、しっかりと大きな計画作って、市民と相談しながらいろいろなこと作っていかなければいけないなというのが今の段階です。 |
| ・新発田教育長 | ・　この計画の中に、指標として出前授業とか市民講座の方への参加数などあります。今、無農薬についての市長の授業があったり、学校の授業に関わったり、市民教育に関わったりする事業もあって、教育委員会としても、この健康ポイントもそうですが、多角的に、一緒になって取り組む内容なのだろうと思っています。教育委員会として、市長部局の方にもお願いをしたり、あるいは、依頼を受けたりすることをしていく必要がある、とても大事な気風でないかと思います。それで、今回議題に上げていただいたように思っているので、また今後の教育委員会の中でその話もしながら進めていければなと思います。 |

| | |
|---|---|
| ・中川総務部長 | ・　時間の配分が悪く申し訳ありません。予定の時間を過ぎてしまいましたが、今教育長が仰ったとおり、今後また議論していればと思っておりますので、よろしくお願いします。<br>・　議題２の方は終了ということで、報告の１番であります。佐渡市小学校・中学校再編統合計画の進捗の状況につきまして、事務局の説明をお願いします。 |
| ・柳澤教育総務課長 | ・　よろしくお願いします。時間もありませんので簡単に説明させていただきます。２番目の再編統合協議会発足状況の方ご覧ください。再編統合対象校の 11 校中３校が第１回目の協議、または予定という事になっております。残り８校につきましては、今後委員の選定に向けて今準備をしているところす。<br>・　令和５年度の計画ですが、５月までに第１回協議会を全ての対象校で開催し、８月までには第２回の協議会を全ての対象校、９月以降につきましては、協議の進捗状況におきまして、３回、４回、年６回の開催の部分での計画を予定しているところであります。<br>・　いずれにしましても、一層丁寧な説明と着実な取組を努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。<br>・　報告につきましては以上です。 |
| ・中川総務部長 | ・　説明は終わりました。報告という所で進捗状況でした。何かご意見等がありましたら、挙手をお願いしたいと思います。 |
| ・委員全員 | ・　発言なし |
| ・中川総務部長 | ・　宜しいでしょうか。何かあれば事務局の方に質問していただければと思います。<br>・　少し時間を過ぎましたが、予定していた議題は全て終了しました。本日はご出席いただきありがとうございました。閉会にあたり市長から挨拶をお願いします。 |
| ・渡辺市長 | ・　今日は本当に多様なご意見ありがとうございました。皆様方とお話しして、どういう風に教育を進めていけば良いのか、ご指導いただいたと思っています。皆がわかりやすくて取り組みやすい、そんな改正も必要だと思っていますので、また皆様とよくお話ししながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。<br><br>午後３時８分終了 |